

# 教授に就任して



## 教授に就任して

新潟大学 医歯学総合研究科 口腔生命科学専攻  
口腔健康科学講座 う蝕学分野 教授  
野 村 由一郎

新潟大学歯学部の関係各位におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度新潟大学歯学部う蝕学分野（旧：歯科保存学第一講座）の教授を拝命し、本年4月1日より着任いたしました、野村 由一郎（のいり ゆういちろう）です。よろしくお願ひ致します。初めに、このようなご報告とご挨拶の機会を与えて頂きました新潟大学歯学部の関係の皆様へ感謝申し上げます。

まずは、自己紹介を交えて私と新潟との関わりをご紹介します。私は、平成元年3月に徳島大学歯学部を卒業いたしました同学部の7期生です。学生時代は歯学部のバレーボール部とラグビー部を兼部しておりました。本職はバレーボールですが、部員不足の折オールデンタル出場を目指すラグビー部にも毎年9月から12月の間のみ身を寄せておりました。其の甲斐あって、私はオールデンタルに11回出場させて頂きました。6年間で2度ほど、血尿も出しましたが…12回でない理由は、5年生のラグビーのデンタル出発の前日練習中に骨折し、泣く泣く出場をあきらめました。6年生の12月30日まで地元徳島開催のデンタルに出場し、全国3位になったのは今でも良い思い出です。そのせいか、1月に行われた国家試験の模試では、徳大の後ろから1割内に位置していました。当時は、3月に国家試験があり、今より時間があつたため、体力に物を言わせて頑張り、国試も無事合格しました。今の、学生さんには決して模範になる生活を送っておりませんでした。絶対にまねはしないでください。時代が違います。一

方、この課外活動が私と新潟を初めて引き合わせました。丁度30年前ラグビーのオールデンタルが新潟で開催されたのです。当時フェリーと特急を乗り継ぎ10時間程度かけてたどり着いた覚えがあります。創部以来デンタルで未勝利であった徳大歯学部ラグビー部は16名の寄せ集め集団で初勝利を目指しました。くじ運がよく、1回戦の対戦相手は15名に足りていませんでした。危なげなく1回戦を突破した勢いで2回戦準々決勝と勝ち進みました。我々も負傷者多数になり準決勝を棄権するか否か、聞いて回られた当時のキャプテンを今でも覚えています。旅館の予約は、2泊3日しかなく、結局ベスト4という成績と20~30万の借金を残し初めての新潟を後にしました。次年の夏には私が主将としてバレーボール部が新潟を訪れましたが、6戦全敗の散々な成績でデンタル新潟シリーズを終えました。バレー部は、私が卒直後より3年間、初代監督として同行し、連続準優勝を成し遂げ、その後の栄光の歴史への一步を刻みました。またその時代に知り合った女子マネージャーのひとりと後日結婚し3人の子供を授かりました。4年前、マイアミの学会中に脳梗塞で倒れ、当時半身不随に近い私を1人で地球の裏まで迎えに来てくれたかけがえのない大切な女性（ヒト）です。私の足跡をたどるに、原点である徳島の学生時代を抜きにはできませんでしたので、長々とプライベートまでご紹介しました。

平成元年に徳島大学歯学部を卒業後、平成8年10月まで、徳島大学歯学部歯科保存学第一講座に在籍しておりました。元々は、一診（新大では総

診)時代に担任の先生(故 内田昭次教授)に入局を勧誘されたのがきっかけでした。その先生が一診(総診)の12月に急逝され、教授不在の弱小教室に入教室することとなりました。その後、平成2年の2月より同講座を主宰されました恵比須繁之教授(前大阪大学副学長・前大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学教室 教授)と巡り合ったことが、生まれ故郷の大阪大学でお世話になるきっかけとなりました。私の入局当時の徳島の教室員は10名不足でしたが、恵比須先生が阪大に移動される平成8年当初には20人半ばまで増え、徳島大学歯学部講座内でも有数の機動戦隊と姿を変えておりました。その間、歯科臨床・教育そして研究の3本柱をバランスよく行うことが、臨床系教員の責務であると叩き込まれました。プロ野球でもトリプルスリー達成の困難さが昨今話題となっておりますが、臨床系教員は、どれ1つが欠けても問題であり、新潟大学でも、バランスの取れた人材を輩出し、後継者の育成に注力しようと思っています。

研究面では、恵比須先生のライフワークでありますデンタルプラーク(デンタルバイオフィルム)研究に傾倒し、徳島では、歯肉縁下バイオフィルムを、大阪では感染根管関連バイオフィルム(特に根尖孔外バイオフィルム)の研究を、ここ新潟では講座名にもなっております、う蝕(特に根面う蝕)関連バイオフィルムの研究を展開しようと考えております。これで保存領域のバイオフィルムを制覇することになるのではと考えています。学会のシンポジストとしての4度の講演に招待を受けた内、2回が新潟開催であったという縁も感じています。

臨床面では現大阪大学大学院歯学研究科 歯科保存学教室教授林 美加子先生や現大阪大学歯学部附属病院 臨床教授木ノ本 喜史先生(徳島大学歯学部非常勤講師)等のレベルの高い臨床家の先生方と一緒にできたことが私の臨床の糧となっています。徳島時代に、人員不足で1年目から圧倒的な数の患者様を診察して、ある程度の手技・

手法を確立し、大阪大学での19年半の中で、その理論的・科学的バックグラウンドを構築するとともに、アドバンスな臨床に触れたことで、簡単には崩れない臨床を培えたと考えています。新潟では、先代の教授興地 隆史先生(現東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔機能再構築学講座 歯髓生物学分野 教授)が築かれたモダンエンドの臨床を新潟全域に定着するよう努めるとともに、保存修復学の領域も含めた新たな治療法や治療薬の開発にも積極的に挑み、高度先進医療の実践にも取り組んでいこうと考えています。

教育面では、新潟大学歯学部は、平成27年に文科省の教育認証評価のトライアルを既に終了した教育先進国です。これは、現新潟大学歯学部長前田健康先生をはじめとする、先人の先生方のご努力の結晶だと推察しています。阪大も徳大も幽霊屋敷化した校舎で学生が講義や実習に励んでおりますが、此処新潟では本年3月にリニューアルも終了し、真っ新となった校舎に設置された数々の最先端・最新鋭の設備・機器の中で、才能あふれる学生達をどのように教育すれば一番良いのか思案に暮れています。充実したのはハードだけで、ソフトは開発途上だと素見されないように、学生諸君の気概を失墜させることがないように、謙虚にそして貪欲に教育して参りたいと考えています。改装については、今年の3月号の歯界展望の巻頭企画“教育研究環境整備と充実—新潟大学歯学部の取り組み—”をご覧ください。

3校目の大学ということで、移動の戸惑いはそんなに感じておりません。単身赴任の戸惑いはございますが、3名の阪大出身の先輩教授が在籍していることも大きな力になるでしょう。前田先生からは、野杵は徳島から来てもらったと言われ、モチベーションの高まりを感じるるとともに、気負いもなくなりました。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願ひ申し上げますとともに、新潟大学歯学部および関係各位の更なる発展を祈念して、就任のご挨拶とさせていただきます。